
平家落人の歴史の旅 in 四国

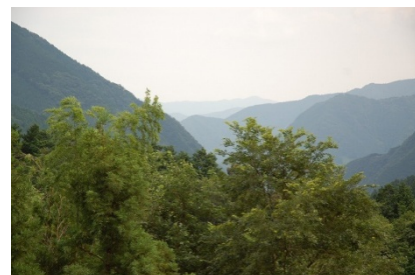
“海あり山あり谷あり川ありのたび”

2011年7月29日(金)～31日(日)

Special Report

石井明 三森晶則 矢口正武

2011年8月25日



元気・まちネット「平家落人の歴史の旅 in 四国—“海あり山あり谷あり川ありのたび”」 開催報告（旅の意図と日程）

香川大学 石井明

開催日：2011年7月29日（金）～7月31日（日）（2泊3日）

参加者：[元気・まちネット](#)※ 矢口理事長、佐野理事、三森委員、石井（文責）

1. 旅の意図

今年3月初めの東日本大震災の直前、理事長の矢口氏より今年の夏、しまなみ海道をサイクリングしたい、できれば、その後、尾道に渡って福山の柄の浦も訪れたいとの申し出を受けた。東京から見れば、私の住む高松市も、しまなみ海道の入口の今治市も、尾道も隣町のように感じられる。しかし、高松市と今治市は約120km、今治市と尾道市は約70km離れており、自転車で移動するにはそれなりの覚悟と時間が必要である。そこで、折角、東京よりはるばる四国に来ていただけるのであれば、高松を起点として四国の魅力を十二分に満喫できる旅を企画するからと、3月21日に開催された元気・まちネットの第1回総会で宣言してしまった。幸いにも香川大学には副理事長の神原氏の恩師である関義雄教授（香川大学大学院地域マネジメント研究科）が居られるので、早速、神原氏に間を取り持っていただくことにした。

旅の企画では次の2点に注意した。

- (1)四国の豊かな自然を満喫させる。
- (2)元気・まちネットが目指す地域の活性化の四国バージョンを考える。

写真1は今回の旅の初日に泊るホテルから2年前に撮影した瀬戸内海の夕焼けである。写真左中央から真中に向かってシルエット状の瀬戸大橋が見える。日本一きれいな夕日とホテルの案内にあるが、本当に美しい。東京の喧騒の世界を離れ、静かに日が暮れゆくひとときを過ごす。東京からの客人にこの至福のひとときをまず伝えたい。もちろん、昼間の瀬戸内海も、四国の山々も素晴らしい。この豊かな自然を十二分に満喫させたい。

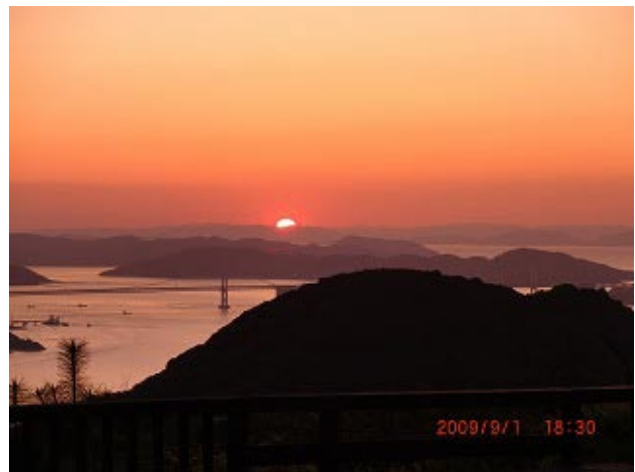


写真 瀬戸内海の夕日

元気まちネットでは、現在2つの旅企画、①イザベラ・バード文学散歩の旅、②清河八郎・回天の道・文学散歩の旅が進行中である。歴史を辿る旅は、各地に点在する名跡、旧跡を互いに空間的に結びつけ、壮大な時間軸のドラマとして映し出すことができる。高松市には鎌倉時代の幕開け(1192年)につながる源氏と平氏の壮絶な戦いの舞台がある([源平屋島合戦 檀ノ浦古戦場](#))。この戦いに負けた平氏は海路敗走し、長門壇ノ浦（現在の山口県下関市）の戦いで滅亡したが、一部は四国山地の奥地に逃れた。この地域は深い溪谷によって隔絶されており、平家落人にまつわる遺跡や伝説が数多く残されている。そこで、屋島檀ノ浦の戦いの場を辿り、平家落人が逃げた祖谷への道を辿る歴史の旅を作る。その旅の道中で、元気・まちネットが目指す地域の活性化についての四国バージョンを討論できる場を作りたい。

これらが今回の「平家落人の歴史の旅 in 四国—“海あり山あり谷あり川ありのたび”」の企画の意図であった。

2. 旅の日程

旅の日程を下表に示す。参加者は東京からの客人3名と私の4名のためのため、その日の天候と体調に合わせて当初の予定を少し変更した。

表 平家落人の歴史の旅 in 四国の旅程

第1日目：7月29日（金）	
出発	・羽田空港発 07:25 ANA531 ・高松空港着 08:40。 ・旅の打合せ（ 香川大学工学部 ：空港から自動車で20分） ・“長崎の鼻”で瀬戸内海の潮流見学（瀬戸内海に突き出した 屋島 の先端） ・平家落人歴史の旅（ 菊王丸の墓 、 安徳天皇社 、 洲崎寺 、 弓流しの跡 ） ・庭石についての講釈（みよしガーデン）
昼食	・讃岐うどん三昧（ うどん本陣 山田家 ）
午後	・源平屋島合戦の地を上から見学（ 屋島ドライブウェイ ）。上り下り逆に見えるミステリゾーン。 ・平家落人歴史の旅（ 血の池 、 獅子の霊巖 ）、 屋島寺 （84番札所）。・瀬戸内海の眺望を楽しむ。 ・ 東山魁夷せとうち美術館 。 ・ 瀬戸大橋記念公園 屋上展望台からの 瀬戸大橋 の眺望。
夕方	・ 讃岐五色台休暇村 ・瀬戸内海展望レストラン「讃岐・創作バイキング」
第2日目：7月30日（土）	
起床	・06:00 散策，風呂，朝食バイキング
出発	・08:45 ・ 根香寺 参詣（82番札所） ・赤川橋を渡って小歩危山荘に到着 11:00 ・小歩危山荘で抹茶の接待。
昼食	・無空庵でのバーベキューに舌鼓を打ちながら地域活性化について討論
夕方	・大歩危山中の改装中のS邸を訪問。 ・ サンリバー大歩危 “肌，若返りの湯”と大歩危御膳を楽しむ。 ・地域活性化について討論（夜の部）
第3日目：7月31日（日）	
起床	・06:00 風呂，朝食
出発	・08:15 ・ こんぴらさん を奥の院まで参詣
昼食	・讃岐うどん（セルフの店を楽しむ） ・ 雲辺寺 参詣（66番札所）。 五百羅漢 像見学。
夕方	・高松空港発 17:35 ANA 538 羽田空港着 18:50

※元気・まちネット：<http://www.genki-machinet.com/>

【団体名称】「NPO 法人 元気で楽しいまちづくりネットワーク、通称：元気・まちネット」

【基本理念】この団体は、広く一般市民を対象として、地域のもつ豊かな自然を活かし、都市と農山・漁村の人的交流を促しながら、自然体験・環境教育・福祉と健康を充分享受出来る機会をつくり出します。会員で元気なまちを見学したり、地元の人たちとの交流を通して講演会/講習会を催しながら、自然豊かな郷土を誇れる環境発掘と、元気で楽しい住民参加型のまちづくりを立案・構築し、自然豊かで元気溢れるまちを創造し、次世代に引き継ぐことを目的とします。

平家落人の歴史の旅 in 四国 “海あり山あり谷あり川ありのたび” の報告

三森晶則

7月29日金曜日、早朝の羽田空港で高松行き7:25発ANA531便の出発を待つ。

羽田空港は夏休みに入ったせいか、かなりの混雑。機体整備の遅れから10分遅れの離陸となりましたが、待ちに待った「平家落人の歴史の旅 in 四国 “海あり山あり谷あり川ありのたび”」の始まりです。

今回は香川大学の石井教授が綿密な計画を立ててくださったため、大船に乗ったつもりでついて行くだけなのでとても気楽。居眠りすること1時間ほどで高松空港に到着、石井教授のお出迎えを受け四国上陸です。

まずは石井教授の運転するホンダ・アコードワゴンで[香川大学工学部](#)に向かいました。



「クマゼミ」が居るの、解ります？

ここではクマゼミの賑やかなお出迎えを受けたあと、石井研究室でコーヒーを飲みながら作戦会議を開始。とは言っても、私たちの勝手なお願いを石井教授が予定の中に上手に組み込んでくれる訳で、こちらはわがままに希望を言っているだけなのでした。

石井教授が用意して下さった今回の旅行に関する資料を参考にして、とりあえず今日は源平の歴史の跡を辿った後美術館見学をする事に決定し、まずは瀬戸内海の見渡せる[長崎の鼻](#)に向かいました。

瀬戸内海は干満差が激しく潮流が速い所が多々ありますが、ここでも目と鼻の先の海に激しい流れがあることが見て取れ、トライアスロンで鳴らした矢口さんも驚くばかりでした。



「長崎の鼻」で瀬戸内海の潮流を眺める

天気が良くて暑かったのですが、青々とした瀬戸内海の眺めに初めての四国旅行の佐野さん、修学旅行以来の矢口さんもしばし潮流見物を楽しみました。

と言ってもあまりの暑さには勝てず、早々に車に飛び込み、漸く歴史の旅の始まり。源平合戦時の[菊丸の墓](#)、[安徳天皇行宮跡](#)の神社を参拝後「[むれ源平石あかりロード](#)」へたどり着きました。

明日からは色々な形の灯籠に明かりを入れ、まちおこしの一環として華やかに催される様子が見てとれました。きっと落ち着いた中にも華やかなものになる事でしょう。

[洲崎寺](#)に立ち寄り、ここでも石あかりロードの準備が進んでいるのを見、NHKでも放送されるということを知りました。放送を見ることが出来なかったことは残念です。



安徳天皇行宮跡の神社



「むれ石あかりロード」の案内板

[義経弓流しの跡](#)へ向かう途中、ちょうど準備をしていた石屋さんに話を聞いた後、義経弓流しの跡を見た後はお待ちかねの讃岐うどんの昼食です。

今日の場所は、老舗「[山田屋](#)」。造り酒屋の頃からの立派な長屋門を抜け、趣のある母屋で天麩羅、寿司付の釜揚げうどん定食に舌鼓を打ちました。

さすが老舗、美味しくて一気に食べてしまいました。いきなり満腹の三森は大満足でした。



老舗「山田屋」前で と 釜揚げうどん定食

食後は[屋島ドライブウエー](#)を通り屋島山上へ。ここでは[四国 84 番札所屋島寺](#)を参拝。この展望台からは瀬戸内海が一望でき、長崎の鼻とは違う高台からの瀬戸内海を眺める事が出来ました。



屋島寺からの瀬戸内海

その後は一時間ほど車を走らせ、坂出・番の洲「[瀬戸大橋記念公園](#)」の中にある「[東山魁夷せとうち美術館](#)」へ向かいました。

東山画伯のリトグラフなどをたっぷり鑑賞、瀬戸大橋を見ながら閉館近くまで休憩しました。せっかくなので瀬戸大橋が一望できる展望台に上り瀬戸大橋を眺望しました。



香川県立東山魁夷せとうち美術館



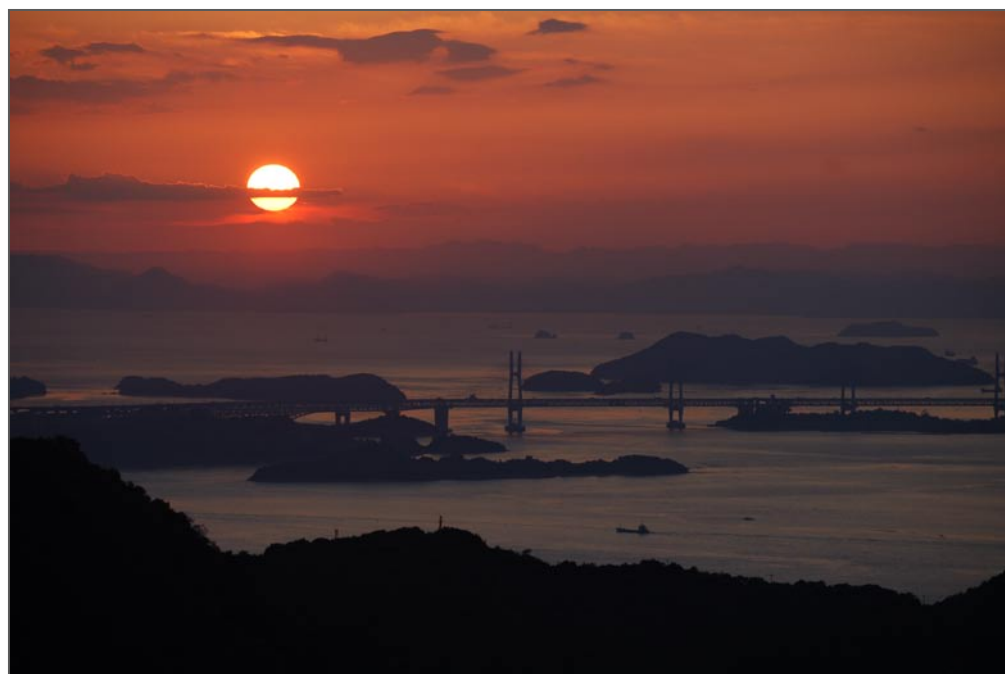
瀬戸大橋をバックに

そして今宵の宿、[休暇村 讃岐五色台](#)へ向かいます。

入館早々、大浴場で瀬戸大橋の眺望を楽しみながら今日一日の汗をゆっくりと流し、絶景ポイントでの夕日を待ちます。

ここは夕日がきれいな事で知られた場所ということで、午後7時近くから瀬戸内海に落ちる夕日をじっくりと眺めることが出来ました。

この絶景をご覧ください！



五色台からの瀬戸大橋と夕日 2景

夕食は創作料理のバイキング、家族連れが終わった後でしたので、のんびりと味わうことが出来、明日からの予定を再検討し、のんびりと過ごし今日一日の予定終了。

翌日は6時に起床。朝食前に宿周辺を30分ほどウォーキング、朝風呂で汗を流した後食事をし、今日の目的地小歩危へ向かって出発しました。

途中、風情のあるお寺、[第82番札所根香寺\(ねごろじ\)](#)を参拝しました。木々の緑が美しいお寺で、本堂の回廊には万体観音が安置され、信仰の深さを伺わせます。



82番札所の根香寺とお遍路さん

そして車を走らせる事一時間余り、いよいよ香川大学の関教授との待ち合わせ場所へ向かい、初対面の挨拶後小歩危山荘へ向かいました。

小歩危山荘へは「[赤川橋](#)」という吊り橋で吉野川を渡り、10分ほど山道を登ります。



「赤川橋」で吉野川を渡り山道を歩く事約10分、「小歩危山荘」到着



赤川庄市さんの御点前

小歩危山荘へ到着早々、ここの清流で沸かしたお湯で抹茶の接待を受けました。

お茶を接待して下さったのは赤川庄市さん。88歳とは思えないお元気な方、後で付近一帯の山持ち、林業で財を成した「赤川橋」の赤川さんと知りびっくりしました。

毎朝お茶を立てて飲まれるのが日課とか。それでもこの水を使ったお茶は素晴らしい味との事。味のよく解らない私もお代わりをしてみました。

関教授が火を熾して下さり「無空庵」と名付けられた六角堂でバーベキューの始まりです。清流で冷やしたビールで乾杯、赤川さんも「大好き」な日本酒が進みます。

六角堂の柱は、栗、柿、高野槇、杉、檜、松の6本で支えられ、それぞれが特徴ある風情を醸し出していました。私は2、3日前にスズメバチの巣を取ったばかりで、時々舞い戻ってくるスズメバチにビクビクしながら、それでも大好きなビールをグビグビと美味しくいただきました。



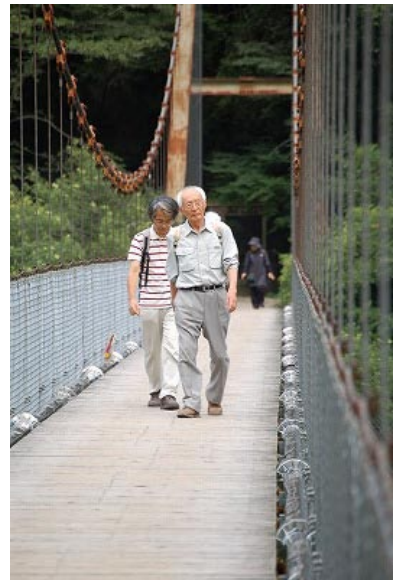
六角堂での楽しいバーベキュー

途中から大倉工業株の鴻池会長夫妻が偶然お見えになり、一層楽しいバーベキューとなりました。なにはともあれ六角堂の前で記念写真です。



みんなおすまし

その後、川を渡った山の中腹にある築数百年と云われる、これから関教授が住まれる「関亭」に場所を移しました。ここはまだ工事中ですが、主部材は昔のままに内外装を一新している最中です。これからは関教授の根城になるそうです。



「赤川橋」を渡って「関亭」へ

この一日は本当に素敵な方との出会いがあり、単なる旅行では味わえない貴重な体験をさせて頂きました。皆さん、本当にありがとうございました。

私たちはこの日、「関亭」を下った所にある[サンリバー大歩危](#)に宿を取りました。

窓からは吉野川の鉄橋を渡る列車を見ることが出来、鉄ちゃん三森は大いに喜んだのでした。

夕食は言わずと知れた鮎の塩焼き付きの大歩危御膳。ゆっくり堪能した後部屋に戻り、石井教授、矢口さんは地域活性化等について夜遅くまで語り合っていました。



宿からの風景



大歩危御膳

3日目は昨日知り合った琴平在住、笠井さんの案内で「[こんぴらさん](#)」、「[雲辺寺](#) (うんぺんじ)」を参詣します。

小歩危から琴平市内まで戻り笠井さんと再会。笠井さんの案内で中腹から本宮、奥の院を目指して階段を上りました。1386段といわれる石段、奥の院に着いた時の私は汗びっしょり、息も絶え絶え、やっとの思いで辿り着いたのでした。

笠井さんが持って来て下さった冷凍ブドウで漸く生き返りました。



笠井さんの案内で「[こんぴらさん](#)」参り

下りは途中から石段を外れ、登山道を下りましたが、「[こんぴらさん](#)」といえは石段と思っていた私には新鮮な道中でしたが、足はガクガク、心臓バクバクになってしまいました。

駐車場に戻った頃には時間も昼近くになっていたので、雲辺寺に行く前に昼食をとることにして、讃岐名物？セルフのうどん屋さんに入りました。それぞれにトッピングをして楽しみましたが、やはり讃岐、本当に安くて美味しいうどんでした。もう少し体力が回復していれば大盛りが食べられたのにと今になって残念に思います。



セルフのうどん屋さんで讃岐うどんに舌鼓

さて、第 66 番札所雲辺寺へ。

このお寺は山上にあり、ロープウエーで登ります。

山上駅は香川県にありますが、山頂が県境となっており雲辺寺の境内は徳島県になっています。ここまでは徒歩では 4.2km の登山道、2 時間余りかかり「遍路ころがし」と呼ばれる難所です。我々は当然ロープウエーを選択、標高 1,000m を一気に登ると気温 20° の別世界でした。



雲辺寺では山上をゆっくりと散策。[五百羅漢](#)を見たり、冬にはスキー場となる草原から讃岐平野を見渡したりとのんびり過ごし、「こんぴらさん」での疲れをクールダウンしました。

このお寺は昨日お会いした赤川さんの旦那寺でもあり多大な寄進をされていることが解りました。因みにロープウエー運営会社、[四国ケーブル株](#)の社長さんは赤川さんの息子さんでした。



五百羅漢像



山頂の毘沙門天像



山頂からの讃岐平野



疲労回復

ゆっくりと休憩した後は再びロープウエーで下山、琴平まで戻ります。

琴平市内で最後の休憩をした後、再会を約束して笠井さんと別れ、我々は東京へ帰るため高松空港へ向かいました。

石井教授ともここで別れ。石井教授には素晴らしい計画を立てて頂いた上、3日間最初から最後まで、香川県から徳島県まで案内して頂き本当にお世話になりました。

私たちは空路東京へ帰還、喧噪の中に戻りました。

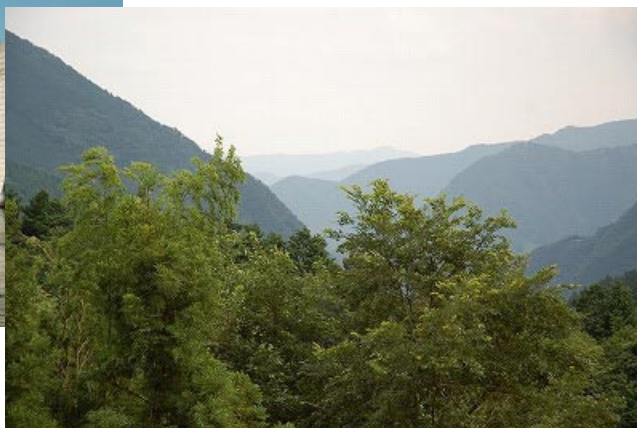
それにしてもこの3日間は何と貴重な体験をさせて頂いた事でしょう。

中でも、先人から受け継いだ貴重な森林資源を守り、その中で自然と折り合いを付けながら心豊かに過ごされている人達と巡り合えた事は大きな宝物を得たような心地です。

四季折々に趣を変えるであろう四国の山懐をまた体験したく、もう再訪に思いを馳せています。ぜひ快くお迎え下さい。

皆様、本当にありがとうございました。又お会いしましょう。

“ 海あり山あり谷あり川ありのたび ” 報告でした



[No.750] 四国の旅 - 1 投稿者：クマジイ 投稿日：2011/08/08(月) 10:44

当初の考えは尾道から「しまなみ海道」をMTBを駆り四国に渡って「さぬき饅頭」を食べることが目的だった。途中、因島で村上水軍発祥の地を見学、瀬戸田では平山郁夫美術館などを頭に描いていたのだが、讃岐うどん（香川）とは随分離れていることを石井さんに教えられる。

石井さん（香川大教授でまちネット会員）とは北アド大会に出場してくれた6年前からの知り合いで「地域活性化を考えて活動している人が香川にもいるので讃岐うどんを食べがてらお出でよ」という誘いに簡単に乗ってしまったのがこの旅の背景である。しまなみ海道から香川までは150kmぐらい離れていることも知らなかった。知らないと言うことは恐ろしい。こうして「平家落人歴史の旅in四国」とタイトルを変えて今回の四国行きと相成った。佐野さんが1ヶ月前に格安チケットを取ってくれたので電車よりもずーっと格安で行くことが出来た。参加者は三森、佐野、そして私を入れた東京組と香川で石井さんが合流、2泊3日の行程は全て石井さんにお任せである。

7/29（金）am7：25羽田を発ち、高松空港到着は予定より10分遅れの8：55、なかなか綺麗な空港である。首を長くして待っていてくれた石井さんの車で最初に訪問したのは先生が勤務する香川大学工学部のキャンパスである。耳をつんざくようなクマゼミの鳴き声に圧倒され、教授の部屋で珈琲を飲みながら旅の確認をする。

キャンパスを出て最初に向かったのが屋島の突端長崎の鼻、潮の流れが速いのが一目でわかる。向かいには女木島、大島が見える。そこから安徳天皇社、州崎寺を見て庵治石でまちおこしをしている「むれ源平あかりロード」を見学、このあたりからもうお腹がすいて「讃岐うどん」が目の前にちらつき始める。

石井さんをせつつきやつのことで本場「山田家うどん」ののれんをくぐる。もう堪らん、この豪華な写真を見てよ！！ もっともっと書きたいけど今日はここまで！
（鶴瓶の家族に乾杯風・・・）

[No.751] 四国の旅 - 2 投稿者：クマジイ 投稿日：2011/08/09(火) 13:05

腹ごしらえを終えた一行が目指したのは屋島である。屋島ドライブウェイの途中にミステリーゾーンがあるという。車は上って下っているはずなのに降りて振り返ってみると??? あれ勾配はずーっと下り勾配のままだ。ん？ これって目の錯覚か・・・ 不思議なこともあるものだ。頂上に到着、広～い駐車場には車は数台しか見あたらない。四国八十四番札所にあたる屋島寺がある。鑑真が開祖した寺らしい。

屋島を下りて車は一気に西へ、佐野さん唯一の希望で瀬戸大橋のそばにある「東山魁夷せとうち美術館」を見学。東山魁夷の祖父が坂出出身だった縁でこの地に美術館が建てられ版画作品270点が飾られている。カフェから眺める瀬戸大橋は圧倒的なスケールで眼前に迫ってくる。カフェでしばし休憩、車に戻り10kmほど海岸沿いを東に戻ったところに大崎ノ鼻の高台にある五色台に向かう。

今日の宿「休暇村讃岐五色台ホテル」でここからは瀬戸内海が一望出来る。18時頃にホテルについた一行は早速温泉に浸かり今日の汗を流す。19時過ぎ部屋から眺める瀬戸内海の夕景は言葉では表せないほど素晴らしい夕景だった。食事も旨い、酒も旨い。こうして中味の濃い一日は終わった。

[No.752] 四国の旅ー3 投稿者：クマジィ 投稿日：2011/08/10(水) 14:00

【7月30日（土）：2日目】

移動の疲れもあり夕食後、懇談どころの話ではなかった。ぐっすり休んだお陰で体力が回復、全員で早朝ウォークに出かける。瀬戸内海を一望できるホテルを出ると林内に設けられた小径を約30分ウォーキング、いい汗かいた。ホテルに戻ると温泉で汗を流し朝食、バイキングは品数も豊富でオリジナリティ溢れる小鉢などもありどれも美味しく頂けた。

8：45ホテル出発、同行した三森さんは全国の神社や寺の御朱印を集めるのが趣味という。その意を汲んで石井先生がまず案内してくれたのが五色台の森の中にある根香寺（ねごろじ）。千手観音を刻んだ木の根株が香気を放っていたことからこの名が付いたと言われ、牛鬼（うしおに）伝説があることでも有名な。四国八十二番札所となる。御朱印を貰った三森さん、大事そうに懐に抱え次の目的地、大歩危・小歩危（おおぼけ・こぼけ）に向かう。

一行は観音寺から琴平を抜けJR土讃線と並行して走る32号線を走る。香川県から徳島県に入る。途中の道の駅で香川大学のS教授、Kさん、赤川林業会長さんと待ち合わせ、昼の食材を買って赤川会長が所有する小歩危山荘に向かう。吉野川に掛かる赤川橋（吊り橋）は赤川会長のお父さんが自費で掛けた吊り橋ということだった。大歩危・小歩危のちょうど中間地点にあたる赤川橋を渡りダート道を歩くこと15分、木造でシンプルこの上ない小歩危山荘に到着。山荘の隣には国見山（1409m）から流れ出る滝の隣に無空庵という四阿（あずまや）があり、なかなか凝ったしつらえでそのセンスの良さに驚く。

赤川会長自ら国見山からわき出る清水で淹れてくれたお茶をご馳走になる。こんな贅沢、東京ではなかなか味わえない。吉野川からはラフティングに興じる若い人の歓声が聞こえて来る。S教授と同行したKさんがバーベキューの準備に余念がない。お茶をご馳走になった我々は無空庵に移り、赤川会長と乾杯の練習を始める。清水に冷やしたビールは旨い！！

[No.753] 四国の旅ー4 投稿者：クマジィ 投稿日：2011/08/11(木) 12:42

旅の主目的は何と言っても赤川林業のA会長とその森を守り育て次世代に繋げようと動き出した香川大学S教授（神原教授の恩師）との地域活性化についての意見交換である。S教授から「地域活性化で重要なことは“小さな親切、大きなお世話に”にならないようにすること」開ロ一番にアドバイスを受ける。・・・これは最も重要なことだと思っている。元気・まちネットが自ら仕掛けたことは一度もない。話の中でこちらの趣旨をくみ取ってくれて相手から相談があればいつも考えている。この言葉から始まったことが却って良かった。S教授、Kさんがバーベキューの支度を終え、無空庵に坐ったところで一同で乾杯！

とれたて新鮮野菜に上等な肉が焼ける匂いがもう堪らない。赤川会長曰く「自然が好きな人で悪い奴はいないよ。今日は実に楽しい、酒も旨い。僕は毎日500円分しか酒は飲まないと決めているが今日は特別の日だ」と言ってくれたことがとても嬉しかった。

夕方、S教授がこの山を守るためにと古い農家を買って改修している通称：S邸を訪問することに、小歩危山荘から車で30分山に入ったところの急斜面に張り付くように建っていた。太い梁は煤で真っ黒、年を感じさせてくれる。縁側からは徳島、高知方面の山が一望出来る絶景空間である。

裏には森を守る祠が祀ってあって幹周り優に6mはある立派なソロの巨樹がS邸を優しく包み込むように植えられていた。秋は完成するとかで来年訪問したときはこのS邸で語り明かしたい。皆さんと別れ、山道を下ること15分ほどで2日目の宿「大歩危リバーサイドホテル」に到着。

もっともっと書きたいが疲れているので今日はここまで・・・

[No.754] 四国の旅ー5 投稿者：クマジィ 投稿日：2011/08/12(金) 11:44

【7月31日(日)：3日目】

佐野さんが金比羅参りをしたことがないという。今回の旅で赤川会長にご紹介頂いたKさんは金比羅宮の近所に住んでいて案内して下さいという。みんなで甘えることにして朝早くホテルを出発、途中でKさんと待ち合わせしてよいよ金比羅参りに・・・金比羅、琴平どちらも「こんぴら」と読むのだと思うのだが本当はどちらが正しい？ 浅草寺を「あさくさでら」/「せんそうじ」、浅間神社を「せんげんじんじゃ」/「あさまじんじゃ」と読むのと同じようなもの？・・・

この日は特に朝から蒸し暑い、その上、石井先生とKさんの歩きは早すぎてクマジィはハアハアゼイゼイ・・・ 何故かアウトドア苦手の三森さんは元気について行っている？ きつとあとでバテるぞ！ 山登りの極意は上を余り見ない、足元を見ながらゆっくり歩く（登る）ことが重要。1368段の登りきり奥の院にやっと到着、三森さんやっぱりバテバテ・・・ それみたことか！ Kさんから頂いた氷ブドウで生き返ったとか・・・（笑） しばしの休憩後オフロードを下りる。滑る箇所も多少あったが蝉や小鳥の鳴き声を励みに楽に下りることが出来た。旅の中でこれほど運動したのは初めてなのでもう腹が減って動けそうもない。

四国六十六番札所雲辺寺に向かう途中、いかにも讃岐うどん屋さんらしいお店に見つけて入る。うどんは湯がいてくれるがそれ以外はケースからそれぞれ好きな具をトッピング出来るシステム。クマジィはゴボウのかき揚げ天ぷら+きつねの揚げをトッピング、う～ん最高！！

車は377号線を西に向かい萩の丘公園から雲辺寺へ。山麓駅から高低差660mのロープウェイに乗ること約7分で海拔1000mに鎮座する雲辺寺に・・・ 四国霊峰中最高峰に位置する寺として知られているのだとか。往復¥2,000-のチケットを無料にして頂いた。何せあの赤川会長の息子さんが社長さんをしているとのこと、早くも御利益が？ 帰りにお礼の挨拶をする。

琴平市内のホテルで甘～いあんみつでご苦労さん会。Kさん、折角の休みをお付き合いして頂き有り難う御座いました。感謝、感謝です！！ 石井先生に高松空港まで送って貰い“海あり山あり谷あり川ありに旅”は大成功に終わりました。石井先生にも感謝、感謝です。＿